

## 1 事業概要

### 1. 目的

京都府が所持する小倉山の区域において、「京都府立森林景観保全・再生ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に基づき、山麓寺院等からの眺望や、保津川（大堰川）からの眺めなど、景観形成や斜面防災等の「要性」を踏まえた区域（概ね15haを想定）について森林整備を実施する。

### 2. 小倉山の森林整備が必要な理由

- ・小倉山は、嵐山とともにに保津川（大堰川）の渓谷美と一体となる森林景観を形成し、山麓部には世界遺産の天龍寺を始め、数々の寺院や名所跡が存在しております。京都を代表する町並みであること。
- ・現在の小倉山は、「マツ林」や「ナラ林」が頗るであり、早期に計画的な整備を実施する必要があること。
- ・近接する嵐山四百林では、本格的な森林整備が取り組まれようとしており、この取組と一緒にして整備を行う必要があること。
- ・小倉山周辺では、森林保全活動に取り組まれている団体がいくつもあり、これらの団体や地域の方々とともに整備に取り組むことにより、他の地区においても山林やNPO、事業者の方々との協働による森林景観づくりが期待できること。

### 3. 事業実施方針

#### 実施方針-1 小倉山の景観特性に応じた森林景観づくり

小倉山の森林が形成する景観特性を「山麓半陰等からの景観」、「保津川（人堀川）及び沿岸からの景観」の2つの景観ゾーンに区分し、それぞれの特性に応じた森林景観づくりを行う。

#### 実施方針-2 小倉山の現状を踏まえた健全な森林景観づくり

ナラ林れやシイ林の繁茂、シカの食害により、斜面崩陥上記慮すべき場所や集合が必要な重要な生け垣など行政の立場による技術的な森づくりのしくみを終えることにより、岐阜県山周辺の活性化に向け、ひづくのような森林景観づくりを行う。

#### 実施方針-3 地域と行政が一体となった協働による森林景観づくり

行政による技術的な森づくりのしくみを終えることにより、岐阜県山周辺の活性化に向け、ひづくのような森林景観づくりを行う。

### 4. 対象区域

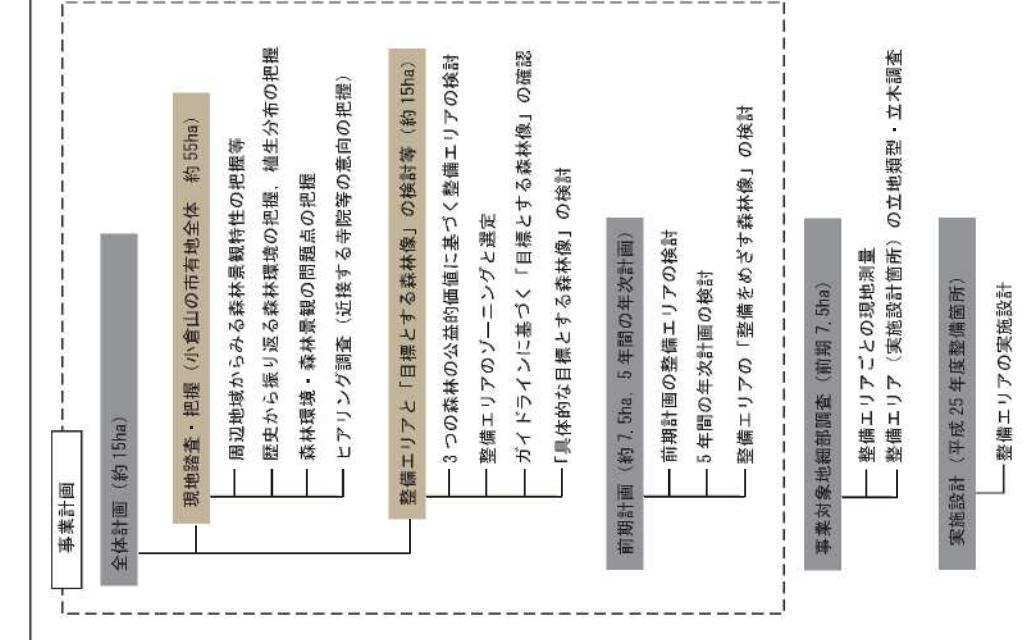
小倉山歴史的風土特別保育地区内の京都市が所有する山林（約5ha）の内、概ね1.5haの区域を整備する。



### 5. 年度別実施計画

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
| 実施期間    | 平成24年度～平成34年度（11年間）            |
| 合体計画    | （約15ha）及び前期計画（約7.5ha、5年間の年次計画） |
| 実施設計    | （平成25年度準備箇所）                   |
| 森林整備の実施 | （平成25年度～）                      |

### 事業スケジュール



## 2 周辺地域からみる森林景観特性の把握

**[1km 圏内の寺院等からみる森林景観]**

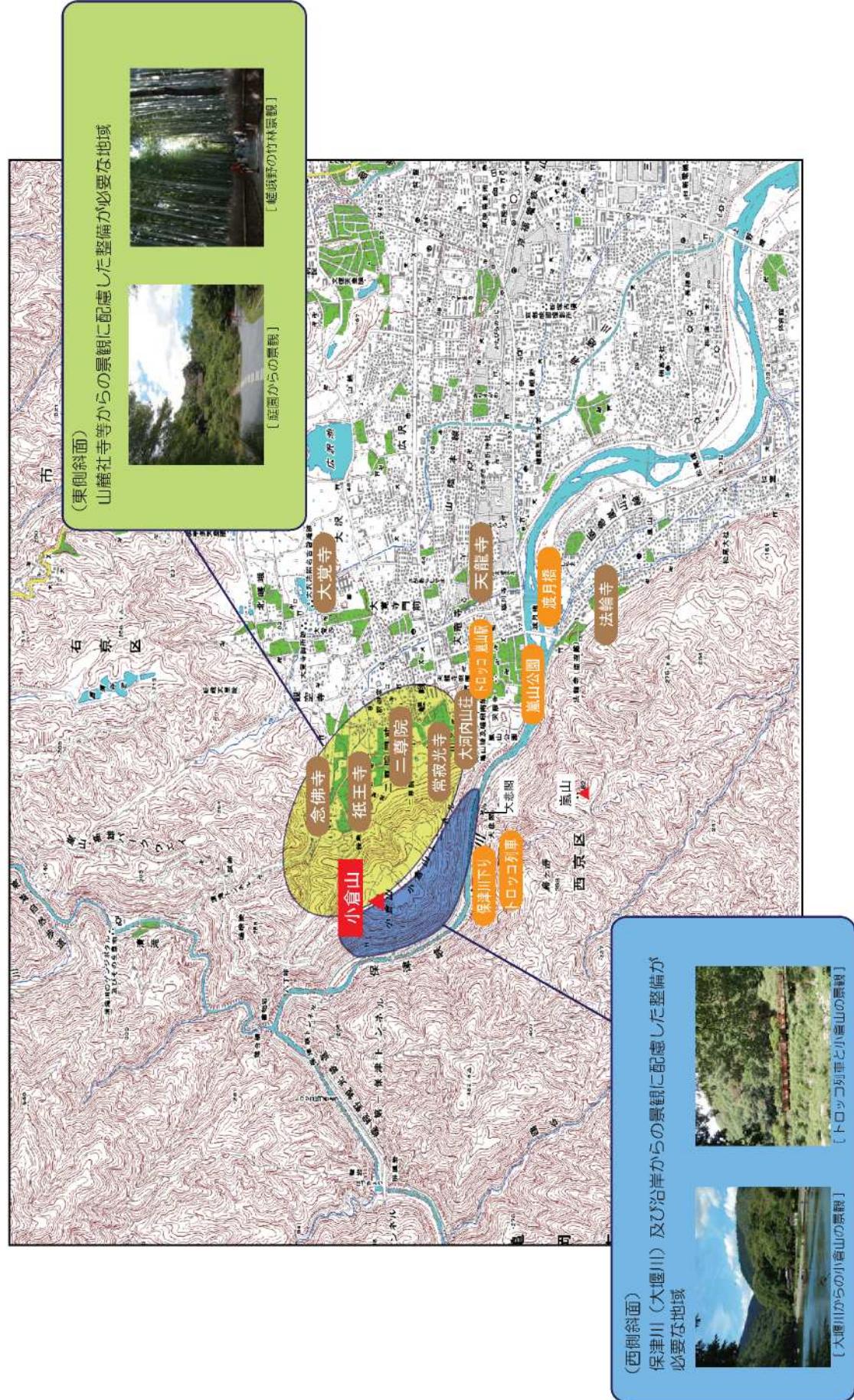
**[3km 圏内の寺院等からみる森林景観]**

**[4km 圏内の寺院等からみる森林景観]**

**[5km 圏内の寺院等からみる森林景観]**

### 3 森林景観の地域性に着目した特性区分

小倉山は、京都でも有数の観光地である嵯峨嵐山に位置し、その森林景観こそが観光資源として価値の高いものとなっている。その特徴は、東側と西側に分かれており、東側では山麓寺院等が数多くみられ、寺院等の庭園からの借景として森林景観が取り入れられてきた。また、西側では、保津川（大堰川）の渓谷美と一体となって森林景観が形成されており、保津川下りや嵯峨野トロッコ列車からの森林景観が愛でられてきた。



## 4 歴史から振り返る森林環境の把握

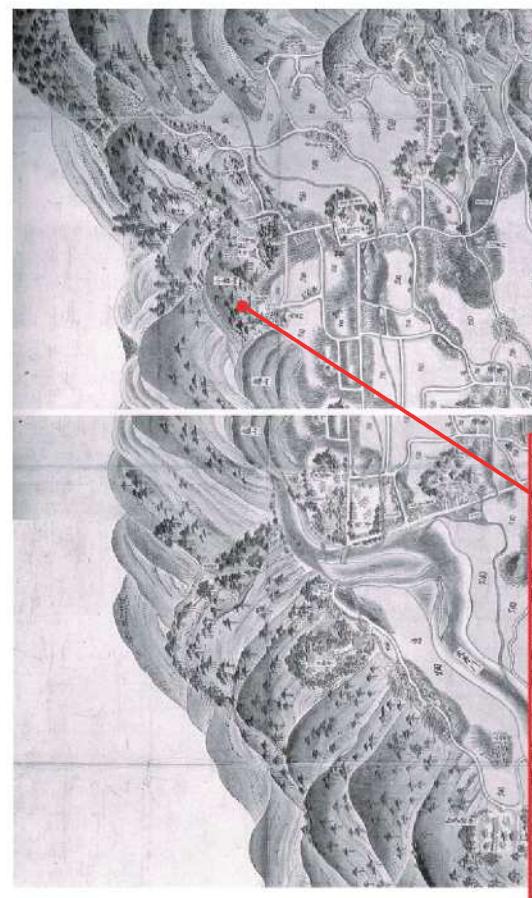
## 1. 絵巻から小倉山の植生を観る

小倉山は保津川（大堰川）を隔てて、嵐山と相対する山容優美な山をいい、海拔292m、古来歌枕として世に知られる名山である。

小倉は「小高い」の意味で、樹木の繁茂するさまから山名となり、古くは嵐山も含めてひろく小倉山と称していったが、後嵯峨上皇が龜山殿を造営し、吉野より桜を移植して嵐山とよばれており、保津川（大堰川）北側の山のみを小倉山と称するようになった。

この山が歴史最高峰でも有名なのは、もみじの名所として多くの歌に詠われているところにある。

「元禄十四年實測大絵図」にもあるように、古來から栄山や筋炭林としての活用がみられた場所であることから、山頂から山裾にかけアカマツが広がっていたことがわかる。「元禄十四年實測大絵図」



出典：「元禄十四年實測大絵図」元禄14年（1701年）

江戸時代から昭和40年代までは、絵巻に描かれた小倉山周辺ではアカマツや竹林が多く描かれており、かつての森林環境が読み取れる。

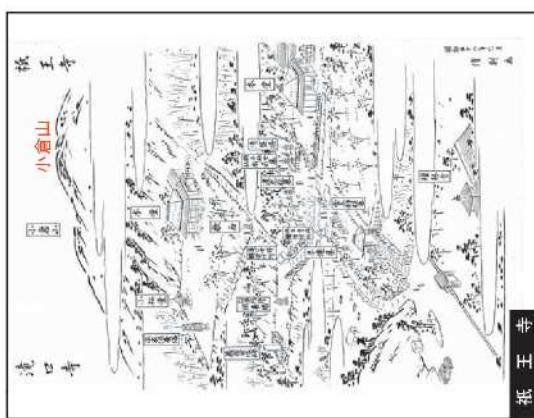
## 2. 昭和30年代の絵図から庭園からの借景としての小倉山を見る

嵯峨嵐山は、古くから風雅の地として貴紳の間に愛された土地柄である。それと同時に多くの別荘や山庄が築かれ、巨大な寺院なども造営されたことから、古くから歴史文化の拠点として栄えてきたことがわかる。

また、そのため、嵯峨嵐山には多くの社寺仏閣等がみられ、小倉山周辺においても、あだ野念佛寺、祇王寺、二尊院、常寂光寺、天龍寺、大河内山庄などがみられる。

こういった寺院等では、庭園景観として小倉山の借景が取り入れられた歴史があり、京都の史跡文化を探訪した竹村則氏も、社寺とともに小倉山の風景を取り入れた絵を描いていることからも社寺景觀としての価値がわかる。

（出典：昭和京都名所圖會（下の鳥瞰図は、昭和30年代に発刊された新撰京都名所圖會を基に、昭和30年代の風景を描いたものであると推測されます。））



## [コナラ林]



## [概況]

西側斜面の隙と粘土のまじった受け盤斜面地に生育。  
本種生育適地であることから成長したコナラがまとまってみられる。しかし、2～3年前からナラ枯れ被害が著しく枯死木が目立つ。

## [コジイ林]



## [概況]

東側斜面地の主に谷から斜面下部の粘土質の土壤に生育する。もどりとは、人の手が入ることにより維持されたことににより、土壤環境が改善されたり、土壌環境が改善されたり、本種が優占する。

## [ヒノキ林(植栽林)]



## [概況]

山頂付近を中心ヒノキ植栽地がまとまってみられる。  
本種は粘土質が土壤適地であるため、樹高17-21mに成長している。

## [スギ林]



## [概況]

谷の一部で本種が優占する樹林がみられた。  
本種と粘土がまじる斜面地にかつて植栽が行われており、本種の土壤適地であつたが、一部で放置竹林もみられる。

## [モウソウチク林]



## [概況]

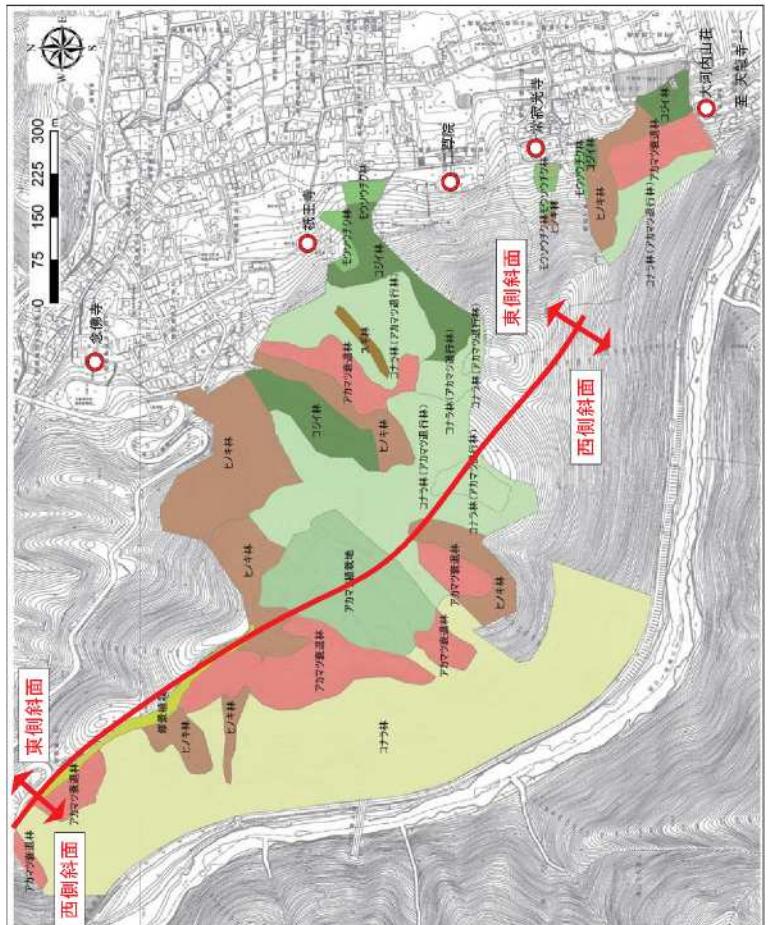
アカマツは、かつて凸型地形を中心広く分布していた。  
燃料などを得るために柴刈や落ち葉かきなどが行われていたことにより、マツに適した栄養源に乏しい土壤が形成されていたが、現在は、垂高木層、低木層、コシダ、アラカン等が生じている。

## [コナラ林(アカマツ退行林)]



## [概況]

東側斜面地のアカマツが枯死した後に成立した樹林。  
粘性基盤である東側斜面地に成立したため、本種の適地でないところから成長はよくない。



## [主な構成種]

- ⑤垂高木層 リヨウブ、ネジキ、タカノツメ
- ⑥低木層 アセビ、コバノミツバツツジ
- ⑦草本層 コシダ、ヤマツツジ

## [主な構成種]

- ⑧垂高木層 アラカン、コジイ、イロハモミジ
- ⑨低木層 サカキ、イロハモミジ
- ⑩草本層 サンショウウツウ、ホソバカナワラビ

## [主な構成種]

- ⑪垂高木層 アラカン、コジイ、イロハモミジ
- ⑫低木層 ヒノキ、アラカン、コジイ
- ⑬草本層 ウラジロ、ベニシダ

## [主な構成種]

- ⑭垂高木層 アラカン、コジイ、イロハモミジ
- ⑮低木層 ヒノキ、アラカン、コジイ
- ⑯草本層 ウラジロ、ベニシダ

## [主な構成種]

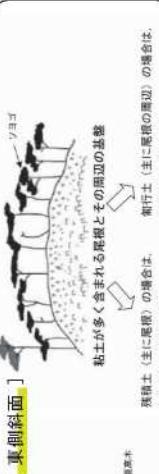
- ⑰垂高木層 アラカン、コジイ、イロハモミジ
- ⑱低木層 ヒノキ、アラカン、コジイ
- ⑲草本層 ウラジロ、ベニシダ



粘土が多く含まれる尾根とその周辺の場合は、  
堆積土(主に尾根)の場合、  
堆積土はヒノキ林へ遷移  
堆積土はシイ林へ遷移



堆積土(主に尾根)の場合、  
堆積土はヒノキ林へ遷移  
堆積土はシイ林へ遷移



堆積土(主に尾根)の場合、  
堆積土はヒノキ林へ遷移  
堆積土はシイ林へ遷移

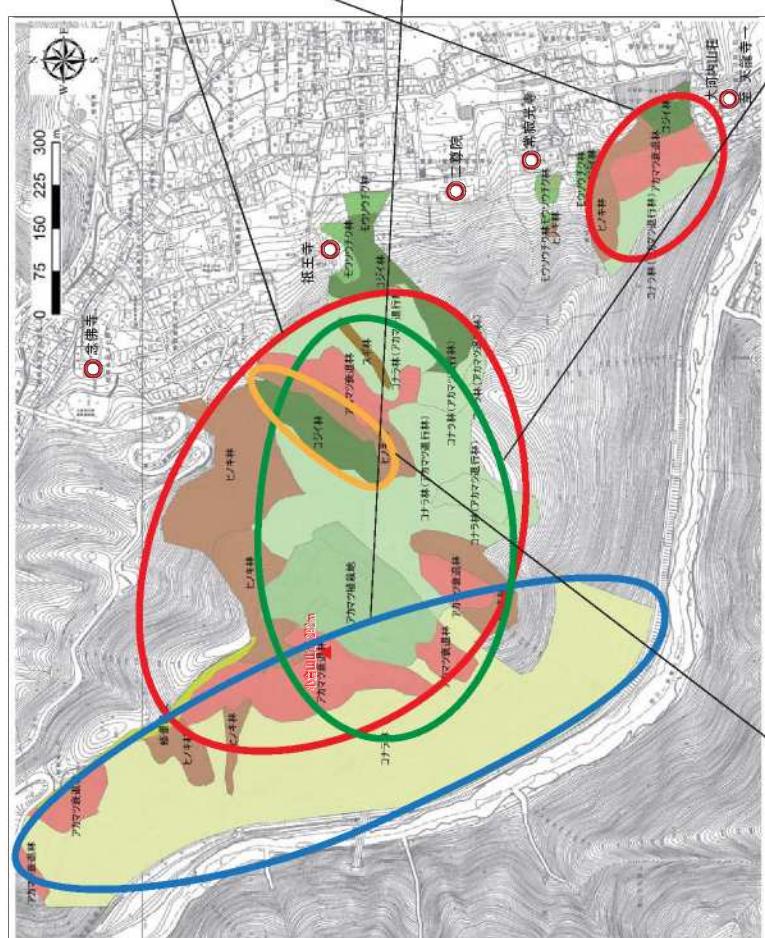
## [主な構成種]

- ①垂高木層 コナラ、アカマツ
- ②低木層 モチツツジ、ナツハゼ、ネジキ
- ③草本層 ススキ、ソヨゴ、ナツハゼ



堆積土(主に尾根)の場合、  
堆積土はヒノキ林へ遷移  
堆積土はシイ林へ遷移

## 6 森林環境の問題点の把握



維持管理が行われなくなつたアカマツ林は、マツノザインセンチューなどの病害虫や下草等繁茂によりアカマツの生育適地でなくなつたことから、マツ枯れが進行した。現在では、アカマツが枯死した跡にソヨゴやネジキ、コジイの密生した林を形成している。

マツ  
枯れ



アカマツの枯死した林

山頂付近及び保津川沿いのコナラ生育地を中心には、3年前からカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害がみられる。もともと、コナラの生育地が限られている小倉山では集中的に被害を受けている。保津川沿いでは、下流から上流にかけて被害が進行している。

ナラ  
枯れ



アカマツ枯死後のソヨゴ密生林

フ拉斯の状況

自然放置による今後の森林植生  
シカによる食害

土壌適地であるコジイ林（東側斜面）  
ソヨゴ密生林



山頂付近の平坦地を中心としてシカの被害がほぼ全域でみられる。林床の下草はほぼ食べつくされおり、裸地化している。後継樹が育たない他、急傾斜地が多い小倉山では、山腹崩壊の原因の一つになるとも考えられる。

シカ  
の  
食  
害



剥皮による食害（リョウブ）

林床に下草が生育しない環境

谷筋の一部の急傾斜地でコジイ等の常緑樹林では下層植生が少なく、シカの食害も重なり、斜面崩壊が起こっている。  
また、樹高17m前後に成長したコジイの枯死（病氣）が谷沿いで点在してみられるところから、今後、斜面防災上検討すべきである。

斜面防災（コジイ林）



剥離性の小崩壊地

今後、植生の定着がみられない場合は小崩壊の拡大の危険もある。

自然放置による今後の森林植生  
アセビなど



## 7 森林景観の問題点の把握

先に述べた森林の被害は、景観にも大きな影響を与えていている。  
特に小倉山の景観は、歴史、観光資源、寺院等からの借景などその価値が高く、嵯峨嵐山の景観の質の低下につながる危険性がある。



【保津川（大堰川）及び沿岸からの景観】  
西側斜面ではコナラを主体とした樹林となっている。  
大規模なナラ枯れが生じており、保津川下り、嵯峨野トロッコ列車からの森林景観を損なっている。

## 嵐山

## 渡月橋

## 嵐山

## 嵐山



## 落柿舎前の景観



【保津川沿いの森林景観（ナラ枯れが目立つ）】



【落柿舎前の景観】

左：落柿舎前の景観  
右：大河内山庄の庭園からの景観

【「保津川（嵯峨芸術大学前）からの景観】  
西斜面側ではナラ枯れ、東側斜面ではアカマツの枯死が目立つ。  
アカマツの枯死は一定の落着きをみせているが、その後に成長した低木の密生林（シヨゴ、ネジキなど）が特徴のない森林景観を形成している。

【「山麓寺院等からの景観】  
アカマツが枯死した後のコジイ林となっており、かつての借景としての風景美（アカマツ林の風景）が失われている。  
また、庭園からの枯死木も目立ち、借景としての景観美も損なわれている。

小倉山における森林環境・森林景観の問題点を整理すると、次のとおりである。

### 森林環境・森林景観の問題点の把握（総括）

#### 1) マツ枯れ（アカマツ林の衰退）

近年の里人ととの関わりの変化（人が山に入らなくなつたことによる）により、定期的な維持管理が行われなくなった。このため土壌の富栄養化による菌根及び樹勢の衰退、マツノザイセンチュウの蔓延によってマツ枯れによる森林景観に変化が生じている。  
アカマツ林の景観は、寺院等の庭園の借景として取り入れられてきたことから、京都の重要な景観要素の一つである。

#### 2) ナラ枯れの拡大

保津川沿いの斜面地ではナラ枯れ被害が著しく、嵯峨嵐山からの森林景観に変化が生じております。保津川沿いの斜面地においては、今後被害が拡大することが予想され、景観・斜面防災上、大きな課題である。

#### 3) シイ林の拡大

マツ枯れ跡地に生長力の高いコジョイが優占する森林景観となつていている。  
山麓寺院等の庭園から望むアカマツ林の借景景観に変化が生じている。  
また、コジョイが発達した薄暗い森林では、林床に光が届かないことから、下層植生が失われる環境となつており、斜面防災上、大きな課題である。

#### 4) 竹林の荒廃

庭園景観と連続した竹林が近年放置されている場所がみられる。こういった場所では、枯竹、倒竹が生じており、荒廃した竹林景観となつている。

#### 5) 複大なシカの食害

小倉山では黙害、特にシカによる食害が生じており、下層植生が食べつくされている。このまま放置すると森林の更新不全により、森林が消失してしまう恐れがある。